

科学研究費助成事業（基盤研究（S））事後評価

|       |  |                               |                                |
|-------|--|-------------------------------|--------------------------------|
| 課題番号  | 19H05669                                       | 研究期間                          | 令和元(2019)年度～<br>令和5(2023)年度    |
| 研究課題名 | 階層的数値モデル群による短寿命<br>気候強制因子の組成別・地域別定<br>量的気候影響評価 | 研究代表者<br>(所属・職)<br>(令和6年3月現在) | 竹村 俊彦<br>(九州大学・応用力学研究所・教<br>授) |

【令和6(2024)年度 事後評価結果】

| 評価   |    | 評価基準                       |
|--|----|----------------------------|
|  | A+ | 期待以上の成果があった                |
| ○  | A  | 期待どおりの成果があった               |
|  | A- | 一部十分ではなかったが、概ね期待どおりの成果があった |
|  | B  | 十分ではなかったが一応の成果があった         |
|  | C  | 期待された成果が上がらなかった            |
| <p>(研究の概要)</p> <p>本研究は、エアロゾルやオゾンなどの短寿命気候強制物質が気温・降水量などの気候要素に与える影響について、研究代表者らが開発した複数の数値モデルをシームレスに結合させて定量的な評価を試みる。特にこれまで不確実性の大きかった雲や降水過程を精緻化する点は大きな特徴である。</p>   |    |                            |
| <p>(意見等)</p> <p>今まで研究が不十分であった Short-Lived Climate Forcers (SLCFs) に焦点を当て、地球規模・地域規模における硫酸塩エアロゾル並びにブラックカーボンの気候変動の影響に関して解析を行った。SLCFs の影響を組成ごとに定量的に評価するという目的は達成され、その成果を著名な学術雑誌に多数報告している。その報告の一部はメディアでも取り上げられインパクトが高い。また、若手研究者の育成も行い、若手研究者が推進した研究内容も本研究の追加的な成果として報告されている。以上のように、本研究は十分な科学的成果を出していると高く評価できる。</p> |    |                            |